



科学の子ら

教育長 津野庄一郎

あれは関小の6年生だったかと思います。あの「すり鉢状の穴」は何だろうと不思議に思い、「アリ地獄（ウスバカゲロウ幼虫）の観察」と題して校内で科学研究発表をしたのは53年前のことです。友達から湯沢の神社境内にアリ地獄がたくさんあると聞いて幼虫を採集した私は、しばらく観察を続けるも結局うまくいかず、最後は図鑑で調べたことを模造紙にまとめて発表しただけの稚拙な内容でした。

10月1日に行われた第61回村上市岩船郡児童生徒「科学研究発表会」（主催：村上市岩船郡小・中学校教育研究会 主管：村上市理科教育センター）は、どの子ども達の発表も内容が濃くレベルの高いものでした。

関川小学校3年生の渡邊遼一さん^{わたなべとおい}（中学年部門）は、「オジギソウはフシギソウ！！」という研究テーマで、植物と光の関係に着目して予想を立て、オジギソウにライトの光や風を当てたり、つまようじで刺激を与えたりする実験を動画で記録・分析して発表しました。

6年生の中東遥花さん^{なかつかはるか}（高学年部門）は、シャープペンシルの芯が時おり折れることから「長さ強さの関係」に着目して実験。パスタの長さを変えながら、どれくらいまで折れずに耐えられるかを計測・記録しました。また、その結果を高層建築と結びつける発想の広がりもありました。二人ともプレゼンのスライドを工夫し、堂々とした立派な発表でした。

関川の子らには、不思議な事物・現象に興味をもち、失敗を怖がらず挑戦し、追究する力を身に付けてほしいと思います。指導された先生方、支えてくださった保護者の方々、大会関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

<【写真】左：渡邊さんの発表、右：中東さんの発表>